

行田税務署管内納税貯蓄組合連合会長賞 銅賞

救われた学校生活

加須市立加須平成中学校

三年 熊谷 知花

私は中学校に進学して陸上部に所属した。種目は長距離で、いつもの練習では長い距離を走らされるため、とても大変だった。同じ種目でともに走っている友達がいる、その子よりも早く走れることがあると、「走ることに楽しんでなあ。」と思う日々が増えていった。しかし、悲劇が訪れた。練習にだんだんついていけず、友達に抜かされるが多くなった。負けず嫌いな自分は、心底悔しく、練習できついからといって休んでいるせいだと思った。大会でも良い記録が出せなくなり、あつという間に二年生になった。ある日、学校で貧血検査があった。結果を知って驚いた、貧血だった。当時は貧血なんて、元気で病院にもあまり行かない自分に無縁だと考えていた。ところが貧血による体に及ぼす影響を調べてみると、疲労感、息切れ、倦怠感、持久力の低下などが挙げられ、全て練習をしていて感じたことと同じだった。それから通院し始めて、鉄分の薬を飲んだり、採血したりしながら様子を見ていた。徐々に回復し、今は三年生になった。そこでとてもうれしいニュースが入ってきた。また駅伝大会に参加することになったのだ。一年生の頃は選手となり、先輩にバトンを渡すことができたが、二年生では補欠となってしまう、今年はさすがに無理だな

と思っていたため、本当にうれしかった。

もしあのとき貧血検査がなかったら、今みたいに元気に走れなかったかもしれない。

不自由なく過ごすために、薬をまだ飲み続けているが、いつも病院に行った時はお金を払っていない。何故、通院代や薬代が無料なのかというと、税金によって支えられているからである。私の住んでいる地域は子育て支援医療費というものがあり、高校生を卒業するまで医療機関に入院・通院した際の医療費などを負担してくれている。税金の使い道は医療だけではない。私たちが楽しく学校生活を送れるのも税金のおかげなのだ。当たり前前に教科書、タブレット、机、椅子などを使ってきたが、これらの扱い方はみなさんどうだろうか。大人になれば、いずれ税金を払う立場になる。将来の子供たちが当たり前日常生活を送れるように、大人たちが頑張って稼いだお金を私たちに支払う。しかし、私の学校では教科書の紛失、タブレットの故障、机、椅子の破損が絶えない。そのため私たちは、大人たちにきちんと敬意を払い、感謝すべきだ。病院から帰るときだったら、「ありがとうございました。」、教科書をしまうときは、ロッカーやカバンの中にきちんとしまう、タブレットを扱うときは、ケースに入れて持ち歩く、たった些細なことから税金に対して感謝の気持ちをもっていかないか。